Voice from the blue sea ★5

大切なものがなぜ?

誰にでもあるミスが「うっかりゴミ」に

文・写真
東 真七水
text & photo by Manami Azuma

「スキューバダイビング×ゴミ拾い×水中ごみ拾い」を専門としたダイビングショップ「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングインストラクターを務める東真七水です。海底に沈んだゴミを楽しみながら回収し、水中ゴミ拾いを新たなマリンアクティビティとして広める活動をしています。今回は私が沖縄の海で回収してきた「うっかりゴミ」についてお話しします。

海洋ゴミ問題、原因はポイ捨てだけではない?

海のゴミと聞くと、一般的にビニール袋やペットボトル、空き缶を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。しかし、時折「なぜこんな物が?」と目を疑うゴミも落ちています。例えば、キャラクターのフィギュア、腕時計、iPhone、車の鍵、さらには免許証、保険証まで回収したことがあります。これらはポイ捨てされたのではなく、うっかり落としてしまった物と考えられます。私自身もポケットに入れたレシートがいつの間にかなくなっていたり、ビニール袋が風で飛んでいってしまった、という経験があります。つまり、海に眠るゴミは意図的に捨てられた物ばかりではないのです。

「ポイ捨てさえしなければ」という意見をよく耳にしますが、私がこういったゴミとの出会いを通じて思うことは、たとえポイ捨てがなくなっても海のゴミは無くならないのではないかということです。だからこそ「捨てる人を減らす」よりも、「拾う人を増やす」ことの方がずっと大切だと思っています。

海のゴミは、きっと「人の心」から発生している

海外の研究によると、海のゴミの7~8割は街中のゴミが原因とされます。使い捨てプラスチックなどの軽量な物は、雨や風に飛ばされることで水路や川に流れ出し、最終的に海へたどり着くそうです。そのため海のゴミは川から、川のゴミは街から、街のゴミは人の心からと例えられます。心とは、ポイ捨てだけでなく、目の前のゴミを見過ごしている人の心も表しています。「うっかり落とし物をすることは誰にでもある。だから道端のゴミを拾うのはお互い様だよね」そんな思いやりを持って、誰もがゴミ拾いを当たり前にする社会になることが、海洋ゴミ問題を改善する近道かもしれません。

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。
【Dr.blue ウェブサイト】
www.dr-blue.okinawa